

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

グローバル人材育成プログラムへの参加

松澤 宏紀
Hiroki MATSUZAWA
機械システム工学科 3年

1. はじめに

自分は2017年8月17日から9月4日にかけてアメリカにあるサンフランシスコ、サンノゼにおいて約3週間のプログラムに参加した。今回のプログラムでは、日本と異なるワークスタイルや文化を学ぶ、また近年求められているグローバルな人材とはいったいどういった人を指すのかということ、実際に現地で活躍する方と触れ合うことで学び取る、この二点を目的とした。今回のプログラムの日程を以下の表1に示す。

表1 プログラム日程

8月17日	出国, シリコンバレーツアー
8月18日	シリコンバレーツアー
8月19日	グローバルキャリアセミナー
8月21日 8月25日	インターンシップ
8月27日	交流会
8月28日 9月1日	インターンシップ
9月4日	帰国

2. プログラム内容

2.1 シリコンバレーツアー

シリコンバレーツアーでは、シリコンバレーにある名所の観光や Google や Intel といった有名 IT 企業や博物館の見学などを行った。自分がこのツアーを通じて一番印象に残っていることは、コンピューター博物館の見学である。そこで解説員の方に、イギリスが最初にコンピューターの技術を開発したに

も関わらず、その技術を秘匿したために、それ以来アメリカがコンピューター技術の先端を歩むようになったという経緯から、一つ一つの選択が重要であるということ、また世界では、万遍な知識よりも、一つの秀でた知識を持った人材が重宝させるということを話していただいた。このように、コンピューターの歴史から学んだ教訓や世界の考え方などに触れることができ、貴重な経験になった。

2.2 グローバルキャリアセミナー

グローバルキャリアセミナーでは、現地で活躍されている山田様、北村様、黒田様のお三方に経営者やマネジメント、投資といった様々な立場から講演をしていただき、その後にグループに分かれてディスカッションを行った。このセミナーの中で特に印象に残っているのは、山田様の講演であり、山田様は、日本人は公平性を重視したり周りと同じようにみせようとするあまり個性を殺してしまっているという日本の問題点を指摘するとともに、個性を形成するには人との違いの積み重ねが大事であり、これによって形成した個性を人や企業に売ってあげることが、キャリア形成であるとおっしゃっていた。この話で自分は、個性が重視されるアメリカと日本との違いを知ることができたとともに、今後自身のキャリアを構築していく上で、指針となる考え方を得ることができた。またその他のお二方にも、イノベーションの定義や、シリコンバレーにおけるベンチャー企業の取り組みなど、今まで知らなかったことや興味深い話をたくさん聞くことができ、大変有意義な時間だった。

2.3 ホームステイ

自分のホストファミリーはフィリピン出身の方で、サンノゼに住んでいた。ホストマザーは大変親切で、優しく、毎日朝早くから自分たちの朝食を作ってくれていて、自分が帰宅すると、その日あった出来事などを話していたりしていた。また休日には、ショッピングや観光などに近くに住む親戚の人

たちとともに連れて行ってくれた。今回のホームステイで、自分の意志を伝えるには、積極的にコミュニケーションをとろうとすること、伝えようとする意志がなによりも大切なのだと学んだ。しかし、自分の意志をうまく英語で表現できなくて、悔しい思いもしたので、英語力はもっともっと上達させていきたい。今回のホームステイは約二週間と短い期間でもとホストファミリーと交流する時間が欲しかったが、大変貴重で充実した時間を過ごすことができた。

またアメリカを訪れる機会があれば、ホストファミリーに会いに行きたいと思う。

2.4 インターンシップ

自分が今回お世話になった実習先の 24 Hr Drain Pro Plumbing は顧客からの依頼を受けて水回りのトラブルに対し修理を行う、または修繕方法の提案などを行う水道工事の企業である。具体的な業務の内容は、温水器やパイプのリプレース、ドレインの詰まりの解消、蛇口の取り付けなどで、自分は主にドレイン作業（図1）やアシスタントを行った。

2.5 インターンシップで学んだこと

自分が、実習中に他の従業員と働く中で感じたこ



図1 ドレイン作業の様子

とは主に二つある。

一つ目は、アメリカに住む人は行動のオンとオフの切り換えが大変上手だということである。今回大変お世話になったオーナーの方は、仕事と仕事の間隙の時間を利用して市民プールによく行かれていた。このことから、アメリカに住む人は仕事中のオンとオフの切り換えをしっかりと行うことで、仕事中に自分の時間を作るのが上手だと分かり、自分がこのプログラムに参加する前に持っていた、日頃からのんびりとした生活を送っているというアメリカに住む人に対するイメージが、オフの部分だけを見ていただけで、間違っていたのだと知ることができた。

二つ目は、仕事の効率化には、個人の特性や長所を理解して最適な配置を行うことがとても大事だということである。実習先の企業では、オーナーが依頼者と作業内容などの交渉をし、体格が恵まれているが、少し人見知りなところのあるメキシコ人の従業員が作業をするというように役割を分担していた。このように、仕事の効率化には、個人同士の特性や長所をうまく組み合わせることが大事である。また、個人でできることとして、キャリアセミナーで山口氏が言っておられたように、自分には何ができて何ができないかを理解して、人との違いの蓄積から長所を生み出す努力を怠ってはならないと感じた。

3. おわりに

今回のプログラムを通して、アメリカの日本との文化やワークスタイルの違いや、グローバルに働くということは人種や文化などの国の違いではなく一人一人の個性を理解して海外で働くことであるという考えを持つことができた。また、日本には気づかなかった語学力の必要性を身をもって感じたので、これからも語学力の向上に努めたいと思う。